



～みんなで描こう 10年後のせき～

第5次総合計画 市民ワークショップ
提言書

平成29年1月27日

VOICE 工房 参加者一同

関市長 尾関健治 様

私たちは、「関市第5次総合計画」の策定にあたり、市民参画による施策提言を目指す「VOICE工房」・市民ワークショップに参加し、「みんなで描こう10年後のせき」をテーマにワークショップを重ねてきました。

4グループ(分野)ごとに、関市の「良さ=強み」と「課題=弱み」の洗い出しを行い、その課題の解決策を、今後の関市に必要なプロジェクトとしてまとめました。

全てのグループで共通していたのは、関市には魅力的な資源(自然・伝統・文化、産業、食)があり、その魅力を最大限に活かすことが必要であるとの意見です。また、まちの課題として、公共交通があげられ、高齢者の買い物、外出、交流等の日常生活への支援と市中心部への交通の利便性を向上させ、まちの賑わいを創出するべきとの意見が多くありました。

さらに、関市のまちづくりを進める上で重要なことは、市民、地域、事業者及び行政が同じまちづくりの方向性を持ち、それら多様な主体がいきいきと活動し相互に協働することであるとの共通する認識が生まれました。

今後、市民、地域、事業者及び行政が、さらに協働を深化させることにより、暮らしやすい関市をみんなで創っていくことが重要であるとの視点から、ここに第5次総合計画に係る施策の提言をいたします。

<各グループのテーマとプロジェクト>

テーマ	プロジェクト
1 福祉	Best福祉ソフトマッチングプロジェクト
2 教育	読書のまちせきプロジェクト お年寄り&学生に魅力あるまちを創る公共交通
3 産業、都市基盤	関のいいトコまるごと観光プロジェクト (SMAP) やっぱりスゴイ関の刃物PRプロジェクト
4 まちづくり、市民生活	地域に住み続けるプロジェクト

第5次総合計画 市民ワークショップ メンバー

福祉グループ

代表 永田ひさ子
浅野 隆
石原 和美
伊藤 恵樹
渡辺 恵美

教育グループ

代表 坂元 広幸
加藤 千尋
大塚 雅之
薫田 文悟
土屋 敏枝
寺町 義昭

産業・都市基盤 グループ

代表 平田 智弘
金子 正剛
小林 慶三
田中 淳也
塚田 浩生
波多野政廣
長屋 正幸
安田 芳寛
松田 貴啓

まちづくり・市民生活 グループ

代表 久保 公平
若園 鉦三
加藤 洋子
平川 貴久
長屋 公平
田中 利弥

政策提言 1

1 福祉

プロジェクト名: Best 福祉ソフトマッチングプロジェクト

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設などが充実している。 福祉相談機関が中心となり、関係者の支え合いの仕組みができやすくなっている。 地域には様々な知恵、技を持った高齢者がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政・地域内での連携が不十分なところがある。 福祉サービスを利用できる地域に格差がある。 歩いて行ける距離で福祉サービスを受けたい。

(プロジェクトの目的)

地域にある人材、集会場などの施設を活用し、子どもから社会人、高齢者、障がい者など、だれもが歩いて行ける距離にあるたまり場的な居場所を創ります。

また、そこに集まった知恵や技のある人（高齢者など）の「できます」と、次代の担い手である子どもなどの「知りたい」、「学びたい」を構えることなく、ゆるくマッチングさせることにより、高齢者から子どもまでの地域内での交流を活発にし、助け合いの好循環をもちたすことを目的とします。

(具体的な取組)

項目	取組内容	事業主体
多様な世代のたまり場的居場所づくり	・既存の集会場や空き家を利用可能な状態とし、地域が居場所として自由に使えるようにする。	行政
	・高齢者から子どもまで誰でも地域の顔なじみにしたい。（生きがい、安心して子育て）	市民
	・高齢者などが家庭で余った食材などを持ち寄り、郷土食を自ら調理し提供する事により、郷土の食を伝える機会とするとともに、地域で行う子ども食堂とする。	市民 行政
	・子どもと親と一緒に参加する事により、親同士の交流の場となり、子育ての経験者（高齢者など）が相談相手となる。	市民

「やりたい事」、「やって欲しいこと」がソフトにマッチングする仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所に集まった人が「やりたい事」や「やって欲しいこと」などの情報交換ができる「地域内なんでも情報掲示板」を設置する。 	行政 市民
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の「やりたい事」、「やって欲しい事」をマッチングさせるため、地域内にコーディネーターを配備する。 	行政
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人が集まることにより、情報交換や地域での課題を話し合うための支援のため、市民ファシリテーターを派遣する。 	行政

(提言のポイント)

- ・集まることができる関係づくりからスタート、高齢者は、得意や知恵を活かし、生きがいを持って地域に参加できるようになる。
- ・子どもがいつでも行ける場所があり、地域の顔なじみになることにより安心して地域で過ごすことができるようになる。
- ・子育て世代は、親同士の交流の場所や、子育てを経験した人に相談できるようになり、子どもがいつでも行ける場所があることにより安心して送り出すことができるようになることで、安心して子育てできるようになる。
- ・高齢者と子どもが遊びや、郷土食の提供により、地域の伝統の継承や、地域版の子ども食堂の役割の一部を果たすことができる。
- ・身近な地域の課題が話し合われることにより、支援の必要な方に早期対応が可能になる。

政策提言 2

2 教育

プロジェクト名：読書のまちせきプロジェクト

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> 読書サークル、推進の活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> スマホの普及による若者の活字離れ・「読書＝人間性を養う」という意識の薄れ 高齢者や子育てママは図書館へわざわざ行くことができない

(プロジェクトの目的)

読書は感性を養い、人間力を向上させる。また、人間味溢れる優しさと愛情に満ちたコミュニティの醸成につながる。社会に出る人としての素養を養うことへの一助となる。

(具体的な取組)

項目	取組内容	事業主体
本が身近にある環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 移動図書館の復活 	行政
	<ul style="list-style-type: none"> ふれあいセンター、喫茶店、お寺、職場にみんなで本を持ち寄り、市内中の様々な施設や店舗に本を借りられる棚があり、どこの施設に返却してもいい。 →本が市内を循環する仕組み 	行政、市民、事業者
図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> 図書館ソムリエの設置（黒服、蝶ネクタイ）→あなたに合った本を探せます。本のことなら何でも聞いて！ 	行政、(指定管理者)
	<ul style="list-style-type: none"> 外国人が読める本のコーナーがない。英語書籍の充実 	
	<ul style="list-style-type: none"> リアルインスタグラム(本の感想を交換するボード掲出) 毎月テーマとなる本を決めて、図書館に訪れた人が、本の感想を自由に書いてボードに貼る。→本の紹介になる。また、本の感想を共有できる取組である。本の感想が一目瞭然、人の意見が聞けることは面白い！ ネットによる図書の貸出受付と自宅への配送サービス(個人負担をとる) 	

図書館の充実（続き）	<ul style="list-style-type: none"> 本の貸出によるポイント制 ポイントが溜まるとメリットがある制度にする。 「ほんわか」のコーヒーチケット贈呈など 	行政、 (指定管理者)
本が好きになるイベント等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 「本のまち」宣言 	行政
	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業対抗 ビブリオバトル 	市民、事業者、行政
	<ul style="list-style-type: none"> 未来の小説家発掘コンクール・小説の募集 関市から第2の朝井リョウを誕生させよう！ 	行政、市民
	<ul style="list-style-type: none"> 親子読書コンクールの継続、 読み聞かせの定着化 	市民、学校

(提言のポイント)

- 本が身近にある環境を整備する。
様々なたまり場に本が置いてある。ブックカフェ化、コミュニティカフェ化を関市中で取り組む。行政と市民が一緒になり、まちのムーブメントを起こす。
- 子どもから高齢者まで、本が好きになる取組を創ることから始める。

政策提言 3

3 公共交通

プロジェクト名：お年寄り & 学生に魅力あるまちを創る公共交通

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドタクシー、デマンドバス、デマンド、自主運行バス、地域内バス、営業路線など様々な形態のバスがある。 ・長良川鉄道が市を横断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の市民満足度が一番低い ・人が乗らないバスに多額の経費を必要としている。 ・学生がまちで遊んでいない。飲みに出していない。大学や専門学校から、まちなかへの公共交通がない。

(プロジェクトの目的)

行政だけでは市民が満足する公共交通が構築できない。市民の互助や地域（地域委員会）の力により、高齢者の日常生活用品の購買を支援する仕組みを構築する必要がある。また、関市には2つの大学と専門学校があり、そのほとんどが市外からの学生である。しかし、まちなかや居酒屋で学生を見かけることはなく、学校とまちなかを結ぶ公共交通もない。学生に対して魅力あるまちを創り、若者が活躍するまちを創るために公共交通等に関する取組を提案する。

(具体的な取組)

項目	取組内容	事業主体
市民や地域（地域委員会）の互助による交通の確保	行政がいくら投資しても市民が満足する公共交通はできない、地域や市民の力で解決する方法を！ <ul style="list-style-type: none"> ・御用聞き事業 →地域委員会で買い物御用聞きを行い、公共交通が不便な高齢者の支援を行う。 	市民、地域、行政の支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・カーシェアリング・地域の共有車両 →地域委員会で貸出用の車両を購入し、カーシェアリングをする。複数で一緒に買い物に行く。 	市民、地域、行政の支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・「移動販売+地域内巡回」バスの実施 →地域内バスと移動販売を合わせて、地域内を巡回する。高齢者の見守りの一助にもなる。 	地域、事業者、行政の支援

<p>学生に魅力あるまちを創る公共交通</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学生がまちに出やすい、大学・専門学校とまちなかを結ぶバスの運行→まちなかに賑わいが生まれる。 • 大学との共同バス運行（名古屋や岐阜への直行便）公共交通の便が悪いと、学生にとって魅力があるまちではない。大学のスクールバスと市のバスを合わせて、共同運行し、名古屋・岐阜、大学とまちなかを直通でつなぐ。 	<p>行政、大学、学生</p>
<p>学生で賑わうまちをつくる活動（公共交通以外の分野）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大学同士のつながりをつくる。大学対抗戦、関学生リーグ（スポーツ・文化活動を含め）大学、企業も一緒になった大会 市内高校・大学対抗ディベート大会、まちづくりの提案コンクール • 市内飲食店に、関市の学生割をつくる学割キャンペーンを市内事業者、商工会と一緒に実施 	<p>大学、行政 事業者</p>

（提言のポイント）

- 行政だけで公共交通の課題は解決できない。
- 地域委員会、市民の互助活動により、市の公共交通を補完することができる。
- 学生で賑わうまちを創ることも重要な視点であり。そのために、学生にとって利便性の高い公共交通網を構築する必要がある。また、学生の大半は市外から来ており、関市のことが好きになり、そのまま住んでもらえるような取組を創りたい。

政策提言 4

4 産業都市・基盤

プロジェクト名：関のいいところまるごと観光プロジェクト

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・自然、伝統、寺社仏閣・食などの観光資源が豊富にある ・うな丼が有名、長良川の鮎は世界農業遺産に認定 ・地場産業が残っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が回遊して、経済循環するまちになっていない ・まち全体の発信力が弱い ・まちの中心地に賑わいが欲しい

(プロジェクトの目的)

関市に点在する観光地点をつなぎ、関まるごと観光エリアとして一体的な地域づくりを実施することで地域の魅力を高め、交流人口が増加することで地域経済を活性化（地元企業にお金を落とす観光）。

(具体的な取組)

★ミュージアム回廊を拠点とした、市内を回遊できる観光の構築

項目	取組内容	事業主体
拠点施設（刃物会館など）の充実	・地域ならではの食事メニュー、お土産、特産品を開発	市民・事業者
	・〇〇横丁を施設内に整備し、お土産・特産品・グルメの販売	行政
	・関市の文化（日本刀鍛錬・居合い・鶯飼）を発信・体験できるような、企画展、体験工房等のコンテンツの充実	行政
	・出張工場（刃物の制作過程の一部を見せる）やワークショップの開催協力	事業者
周遊ルートの確立	・関エリアを周遊する推奨ルートを形成し広くPRする（刃物ミュージアム回廊を拠点とした広域ルート）	行政
	・関の玄関口となるシティターミナルから刃物ミュージアム回廊へ動線の整備（レンタサイクルや送迎バス）	
	・シティターミナルから刃物ミュージアム回廊へ人を引き込むため、道中となる本町通りなどをエンタメ化	市民 事業者
	・地域の観光名所や史跡を案内するボランティアガイドを増加させる	

(提言のポイント)

- 観光客等の来訪者が期待し求めるものという視点でコンテンツを充実する
- 施設整備は行政、特産品開発やお土産、美味しい食事は事業者、市民が積極的に推進する

政策提言5

5 産業都市・基盤

プロジェクト名：やっばりスゴイ関の刃物PRプロジェクト

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> • 世界に誇る刃物産業がある • 近年のPR手法は効果がある • アピール素材は豊富にある 	<ul style="list-style-type: none"> • 土産品として刃物を購入する場所が少ない • PR、情報発信が行政まかせ

(プロジェクトの目的)

関市の刃物産業は世界に誇るブランド力がある。もっと関市の刃物を認知してもらい、購買行動への誘導を図る。

(具体的な取組)

★刃物を総合的に紹介する「刃物の図書館、ウィキペディア」となるwebページを起点としたPRの強化

項目	取組内容	事業主体
Web ページの構築	• 刃物の種類、製造工程、豆知識など、刃物の情報を網羅したブランドサイトの立ち上げ	行政
	• サイトに掲載する商品や情報などの提供 • 購買へと誘導するため、通販ページの構築や各企業へリンクできるようにする	事業者
Web ページと連携したSNSの活用	• YouTube で刃物チャンネルの開設(刃物を使った魚のさばき方や変わった調理器具の使い方などの紹介) • Facebook いいね!競争(関市をPRする記事についた「いいね!」の数を競う) YouTube コンテスト(関市のPR動画コンテスト)の開催	行政
	• YouTube、Facebook などSNSを活用し、積極的に情報発信する	事業者
イベント・セミナーの開催、場の整備	• より専門的、細分化した刃物セミナー等の開催(ニッチな需要に対応) • 刃物まつり回数の増加や、空き店舗などを利用し月替わりで刃物業者が出店できるような場所の整備	行政 事業者

(提言のポイント)

- 失敗を恐れず攻めのPRが必要である
- 市民、企業が自主的にPRし、行政が枠組みを構築。購買行動につながる仕組みをつくることが狙い

政策提言6

6 まちづくり、環境、生活

プロジェクト名：地域に住み続けるプロジェクト

1：空き家を減らす

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・仕事、生活両面から暮らしやすい・子育て世代への移住の助成制度がある	<ul style="list-style-type: none">・空き家が増えている・中心市街地の衰退

(プロジェクトの目的)

地域内の空き家、空き店舗に対する情報提供を市民自らがを行い、行政が空き家、空き店舗を貸し手、借り手への支援をすることによって、貸しやすく借りやすくし、空き家の有効活用を図る。

(具体的な取組)

項目	取組内容	事業主体
空き家の利活用	・空き家を貸す側への助成制度	行政
	・空き家（空き店舗）に移住者、学生、若手創業者が活用してもらえるよう支援する	
	・空き家の情報提供（地域の空き家を借家として提供してもらえるよう、住民間の情報共有、利用促進を図る）	行政 住民

(提言のポイント)

- ・住民自ら空き家の情報を提供することで、空き家が活用され、未然に危険空き家になることを防止する。

2：買い物できる環境をつくる

(関市の現状)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・地域のつながりが強い	<ul style="list-style-type: none">・公共交通が不便・地元商店、個人商店が減っている

(プロジェクトの目的)

高齢者が日常的な買い物に不便を生じてきており、身近な買い物支援することで住み慣れた地域で住み続けることを目的とする。

(具体的な取組)

項目	取組内容	事業主体
買い物支援事業	・地域に残っている個人商店や移動販売者への助成	行政
	・宅配での集団注文取りまとめ	地域・住民
	・地域から中心部への買い物バスの運行	事業者
	・乗合制度の導入	行政

(提言のポイント)

- ・行政の支援だけでなく住民自らが積極的かつ継続的な商店、買い物の利用をすることで、個人商店の廃業や移動販売者の撤退を防ぐ。
- ・外出の機会が増え、また、近所での交流が増える。

3 : 鳥獣・害虫等被害から守る

(関市の現状)

強み	弱み
・自然が豊かである	・鳥獣、害虫による被害が多い

(プロジェクトの目的)

農業は経営から生きがいづくりに至るまで多様な役割がある。有害鳥獣や害虫による農作物への被害は、住民の暮らしに大きな影響を及ぼす。鳥獣害等に対する様々な取組によって、農業がしやすい環境を整える。

(具体的な取組)

項目	取組内容	事業主体
鳥獣等被害対策	・駆除できる人材の確保（狩猟者育成）	行政
	・山林の手入れ（害虫の発生防止）	
	・追い払う道具や電気柵等への支援（農作物の保護）	
	・モンキードックの育成	住民・地域

(提言のポイント)

- ・狩猟者やモンキードックを育成することや、対策道具の貸出制度等、多角的な取り組みで、住民、地域自ら、鳥獣・害虫等被害から守る体制を強化する。